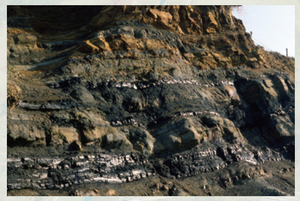
## 釈路炭田の主な炭鉱

太平洋戦争後の復興期には新たに多くの炭鉱が開坑、1960年ごろに炭鉱数はピークを迎えますが、その後は中小炭鉱、そして大手炭鉱でも閉山が続きます。1970年の雄別炭砿・尺別炭砿の閉山以後は太平洋炭砿のみとなり※、2002年に釧路コールマン㈱へ引き継がれました。

※栄和炭砿深山新坑(1965-1972年)、米町炭砿(1972-73年)を除く

## 1 道内最初の採炭地 岩見浜



幕末、開港した函館に入港する外国船に石炭を供給するため、1856（安政3）年に北海道で初めての採炭が行われた場所。その翌年からは白糠町の石炭岬へと移りました。立入禁止区域があるので、見学には注意が必要です。

## 2 国内唯一の坑内掘り稼行炭鉱 釧路コールマン㈱

太平洋炭砿のあとを引き継ぎ、2002（平成14）年から石炭を生産しています。設立時は年間約70万トンを生産。釧路火力発電所へ安定的に石炭を供給するため、大量生産型の「SD採炭方式」から「ルーム採炭方式」へ採炭方式の変更、選炭システムの最適化など、地産地消型の生産システムに一新しました。（見学は受けておりません）

## 3 釧路コールマン㈱ 選炭工場

坑内で採掘された石炭（原炭）はここで比重を利用して、石炭（精炭）と売りものにならない「ズリ」（九州では「ボタ」と呼ぶ）に分けられます。石炭はトラックで発電所や工場へ、ズリはベルトコンベアでズリ山に運ばれます。（外観のみ見学可能）

## 4 旧太平洋炭礦 炭鉱展示館

入口には海面下約350mの坑内から掘り出された6トンもの日本一の大塊炭があり、大型採炭・掘進機械が設置されたリアルな模擬坑道の中を歩くことができます。またパネルや模型で、石炭の生産や歴史について楽しく学べます。

<場所>釧路市桜ケ岡3丁目1番16号
電話：0154-91-5117
開館時間／10時～16時
休館日／毎週水曜日、年末年始
料金／大人300円、こども200円
※団体割引料金もあります

## 釧路市立博物館

1階「釧路の大地」では釧路炭田の成り立ちが学べ、各炭鉱の石炭標本が展示されています。2階「釧路の近代」では、手掘りから1960年代ごろまでの採炭道具、「友子免状」などが展示されています。また、田川市石炭・歴史博物館（福岡県）、新平渓煤礦博物園区（台湾炭鉱博物館）と友好館協定を締結し、炭鉱文化交流も行っています。ショップでは炭鉱や「石炭列車」に関する本やグッズの販売もあります。なお釧路市中央図書館でも、太平洋炭砿をはじめとする釧路炭田に関する書籍や資料が所蔵されています（釧路市教委「太平洋炭砿資料室」）。

<場所>釧路市春湖台1-7
電話：0154-41-5809
開館時間／9時30分～17時
休館日／月曜・4/29-11/3を除く祝日・年末年始休
（詳細はお問合せ下さい）
入館料／大人480円・高校生250円・小中学生110円
※団体割引料金（15名以上）もあります

## ここでも学べる 釧路炭田

### 古潭・雄別歴史資料室

<場所>布伏内コミュニティセンター内
釧路市阿寒町布伏内22線北51
電話：0154-69-2111
開館時間／9時半～15時
定休日／土・日・祝

布伏内郵便局 雄鉄SL205と選炭工場の風景印

### 音別町郷土資料展示室

<場所>音別町ふれあい図書館2階
釧路市音別町朝日2-81
電話：01547-6-2034
開館時間／10時～18時
定休日／月・祝・第3土日

### 炭鉱と鉄道館『雄鶴駅』

<場所>道の駅阿寒丹頂の里内
釧路市阿寒町上阿寒23線36-1
電話：0154-66-3810
開館時期／5月1日～9月30日開館
開館時間／10時～16時

### 白糠炭田石炭資料室

<場所>西庶路コミュニティセンター2階
白糠町西庶路東1条北1
電話：01547-5-3631
開館時間／9時～17時
定休日／月

### 浦幌町立博物館

<場所>浦幌町字桜町16-1
電話：015-576-2009
開館時間／10時～17時
定休日／月・祝日の翌日（土日は除く）

## 5 日本唯一の炭鉱鉄道だった 太平洋石炭販売輸送臨港線（廃止）

石炭列車が選炭工場から釧路港まで、多い日で1日6往復ほどしていました。
1両30トン、24両編成で720トンの石炭を積んだ貨車が、両端に連結したディーゼル機関車によって春採湖畔や太平洋沿いを通ってゆっくりと運ばれていました。かつては釧路臨港鉄道といい、当時の略称の「臨鉄」と呼ぶ人もいます。2019（令和元）年6月末の廃止後も、鉄道ファンなどから注目されています。

※春採湖畔にある旧跨線橋の上に、同線の歴史をパネルで展示しています。
制作：釧路臨港鉄道の会
協力：釧路市石炭産業対策協議会、釧路市立博物館

## 6 知人貯炭場の石炭桟橋（廃止）

春採の選炭工場からやってきた石炭列車は、貯炭場の「石炭桟橋」で貨車の側扉を開放、1両あたり30トン積まれた石炭はわずか数秒で卸されました。そして石炭は地下のベルトコンベヤを経由し、南埠頭の石炭ローダーで石炭専用船に積み込まれました。各石炭積出港で見られた施設でしたが、姿を留めているのは全国でもここだけです。

## 7 国産初期の蒸気機関車［経産省「近代化産業遺産」］ 雄別炭砿鉄道「8722」

8700形は1911（明治44）年にイギリスから10両が輸入、翌年それをベースに国内で18両が製造され、東海道線などでも活躍しました。その後一部は私鉄に払い下げられ、「8722」は北海道拓殖鉄道を経て雄別炭砿鉄道で1957（昭和32）年から石炭列車などをけん引しました。蒸気機関車が国産に移行する時期の貴重な車両でもあります。同線廃止後、㈱釧路製作所構内にて保存されています。（見学時は事務所にお申し出下さい）

<場所>釧路市川北町9-19 ㈱釧路製作所内
同社操業日は見学可能（それ以外は要問い合わせ）　電話：0154-22-7135

## 8 ㈱釧路火力発電所

国内唯一の坑内掘り稼行炭鉱である釧路コールマン㈱の石炭を使用する、地産地消型の火力発電所です。2020（令和2）年12月に営業運転を開始しました。

発電容量 … 11万2千kW
燃　　料 … 石炭（20～25万トン/年）+木質バイオマス

**石炭採掘は海底下約200mで行われています**